

学校教育計画（令和2年度～令和5年度）

学校名	愛川高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制・普通科
-----	--------	------------------	---------

1 学校のミッション

全日制普通科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えるため、学年制によるカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組み、学力の育成、豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することを目指した学校づくりに取り組む。

教育課程については、共通教科・科目を中心に、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえながら、普通科として適切な編成を行う。

これまで地域密着型の連携型中高一貫教育校として、地域との連携・交流により主体的に進路を選択する能力や態度の育成を目指し、学校独自の仕組みの構築をとおして自ら学ぶ力、基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用するための思考力・判断力・表現力等の育成につながる普段の授業改善に取り組んできたが、今後はさらに、社会生活に必要な規範意識を身に付けるなど社会にかかわりよりより人生を送るための力の育成に向けた教育活動の充実に取り組む。

また、学校運営協議会を活用した地域との協働による学校運営の先導的なモデルづくりに取り組む。

2 学校教育目標

- 自己肯定感とコミュニケーション力の育成
- ルールとマナーの尊重
- 目指す生徒像「地域に立脚し自ら未来を切り拓く人材」

3 計画策定時点での課題

- 授業や部活動・生徒会活動において、自らの能力を最大限に発揮し、達成感や成功体験を強く味わったことが少ない生徒が多い。学習習慣、基礎・基本を大切にしたい。
- 家庭環境にも原因を感じられるが、社会や学校のルールやマナーを守る意義や必要性について、自分の言葉で理解できていない生徒が多く、基本的な生活習慣も確立されていない。教職員による生徒・家庭に寄り添った指導・支援にもかかわらず、遅刻の多さ、特別指導の多さがこれらを物語っている。
- 本校は、町民の熱烈な要望により開校した県立学校であり、平成21年からは連携型中高一貫教育を展開しているが、中高一貫教育の成果と課題を整理し、連携教育のメリットを充実させていく必要がある。
- 平成28年度には県立学校では初のコミュニティ・スクールとなり、地域学校協同本部を立ち上げ、本校生のインターンシップやボランティアの受け入れ先として地域の支援を受けているが、これらを十分に活用する校内での指導体制が必要である。
- 増加する外国につながる生徒への支援を充実させる必要がある。
- 「総合的な探究の時間」「学校外の学修」等を通じ、進路実現へ向上心を持たせたい。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導 ※JSL=Japanese as a second language	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の定着および学習習慣の確立に向けた取組を行う。 ・自己肯定感とコミュニケーション力の向上を目指し、一層の授業改善をすすめる。 ・個々の能力・状況に応じた学習支援体制を整える。 ・日本語を母語としない(JSL※)生徒に対しても確かな学力の保障をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を精選したり、課題等を工夫するなど、生徒が積極的に学びに向かうようにする。 ・協同的な学習や、生徒が主体的に取り組める場面設定などの工夫を進める。 ・個別の学習課題や補習等を行えるよう、施設や教職員の環境を整備する。また、情報交換を密にする。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中の学校として地域とともに規範意識の向上を図り、リーダーシップを育成する事でコミュニケーション能力の向上をめざす。 ・個別支援を積極的に推進し個々に応じた指導を行う。 ・中学校との連携や交流を生かし、部活動・学校行事の活性化を図る。 ・生徒の主体的な学校行事への取組を推進する。その活動を通して自己肯定感の醸成とコミュニケーション力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、保護者も含めて規範意識の向上とは何かを生徒に考えさせたい。 ・話し合いの時間を確保し個別指導の短期的な方向性を話し合う。 ・生徒会活動や部活動の中学校との交流を増やし、中学生に本校の魅力を伝えていく。 ・学校行事等において、生徒会を中心とした自主的運営を促し、成功体験を積み、自己肯定感を醸成する。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間の活用を含む地域と連携した取組を用いながら、生徒の3年間を見通した指導により、自分の価値観を見つめ、関心分野を広げ深めた上で、主体的に希望する進路指導を実現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間を活用し、様々な学校の取組みと連携し、発達段階に応じた継続的な指導を行い、生徒の進路希望実現のため、自ら目標を設定させ、挑戦させる。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を中心に地域との協働を目指す。また、地域・学校協働本部との連携を円滑にし、学校外の学修を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会及び部会の活性化を図り、本校の課題の解決を進める。また、地域との連携を進め、本校生徒にとっても地域にとっても有意義な活動を展開する。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び続ける教師、変化に対応できる教師」を目指し、事故のない安全安心な学校運営の推進をはかる。 ・地域との連携を深めながら、生徒にとって安全安心な学校環境を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手職員を中心に「学び続ける教師、変化に対応できる教師」を目指した研修を行うとともに、安全安心な学校運営のため事故防止の意識啓発をする。 ・地域の各機関等とも連携しながら、地域と一体となった学校防災の環境づくりを目指す。